

プロフィール

大学院卒業後、金融機関、在タンザニア日本国大使館での勤務及び UNHCR でのインターン経験を経て、平和構築人材育成事業研修員として UNHCR マケドニア事務所へ派遣。

現在は UNHCR ジュネーブ本部中東・北アフリカ局にてアソシエイトデスクオフィサーとしてイエメン、イスラエル及び GCC 諸国のオペレーション支援業務に従事。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

海外実務研修において国連ボランティア（UNV）として国連組織内で 1 年間勤務するという貴重な経験を通して、将来正規職員になる為に必要なスキル、知識を得ることができると考えたためです。自身のこれまでの経験と専門性を生かしたポストに応募することができということも非常に魅力的でした。更に、派遣前の国内研修を通して、国際機関で仕事をする上で重要な分析力、コーディネーション技術を研修という形でインプットし、直後に海外実務研修でこれを実践しながら身に着けることができるという意味で、学びの大きな機会であると考え参加を希望しました。

2. 国内研修に参加した感想は？

全体を通して実践を重視する内容かつ途上国からの参加者を交えて全て英語で行うという環境もあり、海外実務研修の予行演習としてとても有意義な研修でした。海外実務研修に出ても国内研修の際に直面した問題と類似した状況に置かれることがあり、その際に国内研修時のアプローチを思い出しながら解決策の糸口をつかむこともありました。海外実務研修では UNV という立場ながらプロの仕事としてのアウトプットを求められるので、失敗することの難しい状況ですが、国内研修では学ぶこと、身に着けることが目的ですので、研修員にとっては模索し失敗しておくことができる場として貴重な準備期間だったと思います。

また、6 週間の研修を通して、多国籍、多様なバックグラウンドを持つチームメイトと協力しつつチームとしての成果を上げる難しさとその醍醐味を経験することができるということのも国内研修の重要な意義だと感じています。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

海外実務研修では、UNHCR マケドニア事務所のアソシエイトプログラムオフィサーとして、主に事務所オペレーションの予算・オペレーション計画、モニタリング、業務提携を行っているパートナー NGO との協議・調整、パートナーシップ合意文書の作成、ドナー使節団の対応やドナーミーティングへの参加等、非常に幅広い分野の業務に携わりました。UNHCR のカントリーオフィスでは、主な部署として難民の保護に関する政策レベルの政府への働きかけから個別の難

民認定、再定住や帰還支援等を行うプロテクション（保護）部署と事務所の運営方針の策定や予算計画・管理及びパートナーNGOとの連携業務等を通してプロテクション部署を後方より支援するプログラム（企画・運営）部署に分かれており、私はこれまでの職務経験（銀行員、大使館員）を生かすことのできるプログラム部署での勤務を選択しました。

担当した業務の中で最も大きな比重を占めたのが、パートナーシップ合意を結んでいるNGOや政府機関との調整及びモニタリング業務でした。UNHCR全体として、NGOや政府機関に委託する業務を拡大しつつあるという流れの中で、委託先のNGOや政府機関との綿密な連携及びモニタリングの重要性が一層増してきています。このような状況においてパートナー団体の選定から業務協定書の作成、日々の細やかな調整業務やモニタリング、監査まで含めた一連のサイクルに従事した経験は、現在の本部での仕事においても役に立つ場面が多くあります。



難民キャンプを訪問したドナー国大使のアテンド風景。ドナー国との現地レベルでの関係構築も重要な仕事です。

4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

海外実務研修での1年間は、長いようでとても短い期間です。もちろん最初の期間は現地のオペレーション環境を理解するための学びの時間が必要ですが、常に新しい業務や課題に取り組む姿勢を大切にしつつ実践を通して経験として学んだことがやはり一番身に付きます。現地スタッフや上司とできる限り密接な信頼関係を築き、自らの挑戦をサポートしてもらえる環境を自分から作り出すことがとても重要です。1年間という限られた時間を有効に活用するために可能なことは何でもやってみるという姿勢が大切だと感じました。



広報の一環としてUNHCRチームとして現地のマラソンに参加

私の中で一番印象に残っているのは、マケドニアオペレーションのモニタリング指標の見直しと、この見直し作業から得た知識の事務所内の共有を通じたスタッフのキャパシティビルディングでした。この活動の発端はモニタリング指標のフォローアップを行っている際に発見したモニタリング指標運用の一貫性の無さとその原因となっているスタッフの指標の運用に関する理解の低さでした。モニタリング指標を見直し、これに関してそれぞれのスタッフとの協議を重ねて最終的な改訂作業を行い、より整合性のあるモニタリング指標の運用を実現することができました。また、事務所内のワークショップの機会を利用してプレゼンテーションを行い、事務所全体として継続的に適切なモニタリング指標の運用が行われるようにしました。組織や事務所によっても状況は違うと思いますが、少し気を付けて見てみると、大抵どこの組織においても時間と人的リソースさえあれば対応すべきなのに放置されたままになっている 이슈があるのではないかと思います。このような機会をチャンスと捉えて、自分の仕事の成果とすることが大切だと思います。



事務所内の会議での一コマ。事務所内の意見集約は、事務所内の計画策定に不可欠のプロセスです。

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

今後も、これまでの業務経験を活かしつつ、UNHCR もしくはその他の機関において難民支援・並びに平和構築に関連する分野でキャリアを積んでいきたいと考えています。UNHCR のプログラム部門は、計画・予算・運営という事務所の運営になくてはならない屋台骨を支える部署でもあり、人的ニーズの高い分野であるため、この分野での専門性を磨きつつ自身の強みにしたいと思っています。



国際女性デーに合わせて事務所の同僚と。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

国際機関でのキャリアを希望する方が必ずと言っていいほど直面するのが、難関と言われる国際機関へのエントリーです。当事業は、既に一定の専門性や職務経験を持ち、国際機関への足がかりを求める方にとってまたとない機会になると思います。ボランティアという肩書きこそあれ、実際の職務内容はプロとしての成果が求められるものですので、国際機関を目指される方は是非ご参加ください。